

新型コロナウイルスに関するアンケート 調査結果のまとめ

徳島県社会福祉法人経営者協議会

コロナに関する取組

1. コロナの職員に関する取組 (1) 行動制限 (飲食・県外) P 1～2
 - ①自己判断
 - ②外出制限
 - ③会食等の制限
 - ④行動記録の提出等
 - ⑤密を避ける
 - ⑥その他(2) コロナによる職員研修への影響 P 3～5
 - ①知識や情報を得る機会が減った
 - ②技術等を学ぶ機会が減った
 - ③職員のモチベーションの低下
 - ④オンライン研修等の充実
 - ⑤自法人での研修の取組
 - ⑥外部研修が減った
 - ⑦研修が減った事によるメリット(3) リモートへの対応 P 5
 - ①リモートへの対応
2. コロナの利用者に関する取組 (1) 面会の制限 P 6～7
 - ①電話やリモートによる面会対応
 - ②工夫を行った上での対面での面会
 - ③面会の制限
 - ④面会制限による課題(2) 利用者への行動制限 P 8
 - ①行動制限・外出の制限(3) 福祉サービスの制限 P 9～11
 - ①福祉サービスの制限 (入所・通所)
 - ②行事・イベントの制限・中止
 - ③福祉サービスの制限による利用者や職員のストレス
3. コロナの家族に対する影響 (1) 家族への対応 P 12
 - ①家族への対応について
 - ②施設での工夫について
 - ③家族への影響や負担
4. 施設に対する取組 (1) 地域公益について P 13
地域等に向けた活動
- (2) コロナ対策等について P 14
 - ①コロナ対策等について
 - ②オンラインについて
 - ③公表について
 - ④コロナによる離職について
 - ⑤備蓄について
 - ⑥現場で不足している物
 - ⑦感染症についてのご意見
 - ⑧コロナ情報

1. コロナの職員に関する取組（コロナ感染予防のために職員に行った行動制限の内容）

(1) 行動制限（飲食・県外）

行動制限の中で最も多かったのは、県外への移動を禁止・自粛・制限を要請するなどの対応であった。多くの社会福祉法人において、感染を予防するために、不要不急の外出の自粛や、県外への外出制限を行っていた。

・コロナ感染予防のために職員に行動制限を行ったか

- ・行った 75件
- ・行っていない 21件
- ・未回答 3件
- *合計 99件

① 自己判断 3件

- ・自己判断としたケースは3件のみであった。

② 県外等への外出の禁止等（禁止、制限、自粛） 41件

○人の移動により感染する事例が国内で多く見られたため、まずは法人としては県外出張等の取りやめなどの対応を行い。その上で、職員が感染しないように、県外への外出について、自粛の依頼や禁止等の制限について、取り組みを行った。

- ・県外出張やプライベートでの観光旅行の中止や禁止、自粛並びに、大勢の人が集まる場所への訪問を控えるように、それぞれの法人において職員に要請していた。

③ 会食等の制限等

○食事の時に感染する事例が全国的にも多いため、各法人においては、職員が外部から新型コロナウイルスに感染して、ウイルスを施設内に持ち込まないように、プライベートの環境においても、十分注意をするように、食事会等の制限を行っている。

- ・具体的には、居酒屋、カラオケ、外食等の制限、飲食店での多人数での利用の制限。
- ・また、会食、カラオケ、居酒屋、パチンコ、ライブハウスへの入室の禁止や自粛を職員に行っていた法人もあった。
- ・職員間の親睦会の中止やアルコールを伴う飲食の機会について、制限を設けていたとの回答が、多く見られた。

④ 行動記録の提出等

○行動制限を行う際に、もし、感染者が出た場合に速やかに、感染拡大の対策をとるために、行動記録を各職員につけるように取り組みを行っている法人や施設があった。

- ・職員自身の行動記録をとり、自身で管理を行い、介護施設の職員であるという自覚を持った行動を行うように依頼している法人があった。
- ・施設職員として、利用者への感染予防に常に心がけるよう声かけを行っており、感染拡大地域への行き来は控え、やむを得ず県外へ外出する際は所属上司に相談の上、施設に届出書を提出してもらう。2週間分の行動履歴をひかえ、自己管理することなどの取組を行っている法人がある。

⑤ 密を避ける（行事、懇親会、飲み会、カラオケ）

○国の手引きにもあるように、3つの密を避けるために、施設内でも、3密を避けるような取組を行っている。また、職員のプライベートにおいても感染することがないように、3密を避ける取組を推進している。

- ・施設内での生活の中で、3密となる状況を改善するなどの取り組みを行うのと併せて、職員の生活の中で、3密を避けるように依頼している。
- ・具体的には、場所を列挙して、「居酒屋、カラオケ、映画館、スポーツジム、スーパー銭湯、パチンコ」の利用を制限したり、人が移動し集まる機会となる帰省や冠婚葬祭時に気をつける。また、買い物は、短時間で行うなどの対応を職員に依頼した法人もあった。

⑥ その他

- ・緊急宣言時には、職員に制限するよう伝える
- ・感染予防を徹底した生活様式をとるよう指示した。
- ・不要不急の旅行の制限

〈考察〉

コロナの感染予防のために社会福祉法人では職員に対して、感染予防のために様々な行動制限を行っていることがわかる。最も多かった行動制限としては、県外への外出等の制限であった。その他にも、国が推進する「3つの密（密閉・密集・密接）」を避ける取組について、施設外からウイルスを持ち込まないように、プライベートにおいても3密の状態を避けるように、その制限の度合いは、種別（高齢者の老人分野、基礎疾患を持つ人が多い障がい分野、あと児童分野）や入所や通所によって異なる。また、その時に全国及び県内や近隣でどれだけ、新型コロナウイルスが流行っているかによって、禁止や制限、自粛の依頼要請等、様々な対応状況が考えられる。

社会福祉施設では、新型コロナウイルスに感染すると重体になる可能性がある重度の障害や基礎疾患がある人や高齢者も多い。一度感染者が出るとクラスターとなる可能性が高いため、社会福祉施設では、まず外部から新型コロナウイルスが入らないように予防策をとっている。

(2) コロナによる職員研修への影響（コロナにより職員が研修等を受ける機会が減り、どのような影響があったか）

コロナによって集合型の研修が中止や延期になるケースが多かった。そのことにより、社会福祉施設の職員も研修を受ける機会が減ったが、WEB研修を受講したり自法人内で研修会を行うなどして、対応を行っている。

1 コロナのために職員が研修等を受ける機会が減ったか

- ・減った 82件
- ・増えた 2件
- ・変わらない 10件
- ・未回答 5件
- *合計 99件

① 知識や情報を得る機会が減った。

○知識を深める機会と他施設との情報交換などの機会がなくなった。研修機会が減り、学ぶ機会が減ることで、専門性の低下などが懸念されるとの意見もあった。また、研修会の際にグループワークや研修の場で行う、情報交換の機会が減ったとの意見も多かった。

- ・他施設との情報交換の機会の減少
- ・特に、新任職員の教育に、幅広い研修内容の学びの場がない。

② 技術等を学ぶ機会が減った

○専門的な研修、特にその分野の演習を伴う専門研修や資格取得のための研修については、コロナ感染の影響により、研修会自体が県外である場合は参加が難しく、また、研修会の開催も延期になったり、県内の感染状況により、受講できないケースもあった。

- ・外部研修が中止となり、web研修に変更になるものは受講できるが、演習など実技を伴う研修は受講できなくなり、介護技術等の向上には、多少影響があった。
- ・年度初めに県外で開催される強度行動障がい研修に参加できなかった（支援のスキル、収入に影響）
- ・専門分野の新しい知識を得る機会が少なくなる事による不安、web会議形式の研修には、必ず担当者の参加を促進している。

③ 職員のモチベーションが低下した

○学ぶ機会が減ったことにより、職員のモチベーションの低下が心配されるとの意見が複数あった。

- ・モチベーションの低下。研修が元々受けにくい現場なのに、受ける意識が低下。

④ オンライン研修等が充実した

○会場参加型の研修が中止になる中で、感染予防対策として、オンラインでの研修会が開催されるようになり、福祉施設からオンラインの研修会に参加するケースが年度後半からは増えていると思われる。

- ・流行初期は会議、研修等は全てキャンセルしたため、情報入手の機会が減少した。その後、ZOOM等のオンラインでのやりとりが増え、定着し始めたため、影響は最小限。
- ・まだ直接的な影響はないが、今後オンライン研修等の活用により、人材育成を行っていききたい
- ・徐々にオンライン研修等で解消してきている。
- ・Web研修で補充しているが、会場に出向いての研修も必要と思われる。

⑤ 自法人での研修の取組を行った

○外部研修を受ける機会が減る中で、法人の中で、オンライン研修などの工夫を行い、研修会を行っている。また、研修会を行うに際し、3密状態を回避するために、参加人数を小分けにして、回数を多くするなどして、内部研修を行っているところがあった。

- ・外部機関が行う研修を受講する機会は減っている。代わりに法人独自で感染症対策を行い、研修（オンライン等）を行ったり、施設内の研修の充実を図った。
- ・毎月1回（介護職員は2回）、全職員の集合研修を開催していたが、2月以降全く開催できていない。資料を作成し、担当者が部署毎に研修を短時間で行っている。
- ・外で行われる研修は、殆どが中止になった。施設内研修は、ソーシャルディスタンスをしながら実施している。
- ・新任職員の研修の機会を設けることが難しくなった

⑥ 外部研修の受講が減った

○年度当初は、研修の開催予定も従来の会場型で行われていたため、新型コロナの感染が拡大するにつれ、会場参加型の研修会は中止または、参加の取りやめをする施設も多かったと考えられる。オンラインでの研修が定着してくるに従って、外部研修にも次第に参加するようになった。

- ・職員が受けたい研修は減ったが、新たにコロナ関連のウェブ研修等に取り組んでもらっている。
- ・開催された研修は感染症対策をして参加したが、中止になった研修もあった。オンラインでの研修は特に積極的に参加した。
- ・管理者研修が中止になり、人員配置に影響が出た
- ・感染予防のため、今年度の研修は参加していません（職員）
- ・予定していた研修の中止が多かったです。

- ・現場が潤っているので、逆に助かった
- ・研修が会場での場合、やはり多数の人が集まるということで、徳島県での感染者が増えたこともあり、職員が不安を感じたため、不参加としたが、来年度にということで、とくに影響は少ない。

⑦ 研修が減った事によるメリット

○研修が減った事によるデメリットやその工夫について、これまで書いてきたが、研修が減ることで、職員が施設に勤務することができるため、若干の余裕が生まれたとの意見が、少数ではあったががあった。

(3) リモートへの対応

- ・コロナ感染予防のために法人や関係事業所または、関係機関とWEBによる会議を行ったか

・行った	55件
・行っていない	41件
・未回答	3件
*合計	99件

○研修会と重なるところがあるが、会議についても会場に集まることで、新型コロナウイルスに感染する可能性があるとのことから、これまでの集合型の会議からWEB会議へ移行することが多くなった。こうした感染予防の取組から始まったWEB会議ではあったが、時間的な制約や距離的な制約を考えると従来の集合型の会議と比べて、メリットとなることも多いと考えられる。
福祉現場においても、リモートへの対応を行うことで、知識の習得や合意形成などの面において、業務等を効率化できる可能性があると考えられる。

〈考察〉

コロナの影響を受けて、職員の研修を受ける機会は82法人が減ったと回答している。時系列で見ていくと、年度当初については、研修会の開催者はこれまでどおり会場型の研修を予定していたが、その後、コロナウイルスの感染を危惧して、開催を中止したケースが多かった。

次第にWEBの利用が普及するにつれ、研修会をWEBで行うケースが増え、それに施設から受講することが一般化した。しかし、WEBにおいては、知識の伝達等は有効であるが、専門技術を学ぶための演習等を行うまでには、研修会を開催する立場である主催者側も技術が到達していない状況がある。

今後の感染状況にもよるが、WEBによる研修会が発展することで、知識や技術の習得には、様々な可能性があることがわかる。その反面、従来の研修には施設同士の情報交換等、非公式な情報交換が行いやすいというメリットもある。

2. コロナの利用者に関する取組

(1) 面会の制限（家族とのサービス利用の相談について、工夫をされていること）

家族とのサービスの相談について工夫をしていることとして、最も多かったのが、家族と利用者の面会についてであった。職員はどのように対応すれば、利用者と家族がコミュニケーションを行えるか工夫をしながら対応している。

① 電話やリモート等により対応している

- 面会を行うのが難しい状況の時、施設においては、できるだけ利用者の状況について、家族にも知ってもらうために、電話やリモートでの面会を行っている。
- ・リモート面会の実施、施設内でのイベントの開催を多くした
- ・以前の様に、直接面談が実施できない場合でも、電話による相談、オンラインでの対応も可能である旨をお知らせしている
- ・通所利用者の利用について、慎重となる保護者もいたため、電話連絡を小まめに行い、安心して通所できるように配慮した。施設見学について、見て頂く場所を多少制限している。
- ・個別支援計画の同意に関する相談等を電話で行っている。

② 面会は制限や工夫を行った上で、対面等で行っている

- 面会について、感染の危険性があるので、これまでの面会ではなく、感染を予防した対応に取り組んでいる法人が多かった。具体的には、事前に検温を行い健康状態を把握して、面会室にはパテーション等を設置するなどして、マスクを付ける等の感染予防を行った上で、面会を行っている。
- ・利用前の本人・家族の健康状態の確認、家族が県外在住の時の対応毎に注意している。
- ・できる限り、利用者、家族の健康状態、行動歴を把握するよう努めている。
- ・県外の家族様については、電話などで状態の報告を行いながら不安がないように対応しました。
- ・面会を窓越しにしたり、施設だよりに近況を知らせたり、写真を入れるなどで心配しないよう配慮している。

③ 面会の制限

- 面会の制限については、感染が危惧される場合は禁止の対応を行っている。また、リスクを少なくするために、面会の場所を特定したり、時間を指定したりして、感染の予防に努めている。

通常であれば受け入れているボランティアの来所や外部講師の中止、また児童分野においては卒園生の面会を禁止した法人があり、できるだけ外部の人が施設内

- に入らないようにと、感染予防の観点から取り組みを行っている。
- ・緊急時を除く面会について、施設内での面会を制限した。
 - ・ボランティアの訪問、レクリエーション
 - ・面会場所、時間の制限、外出場所の制限、卒園生の訪問制限、行事の中止
 - ・面会外出の制限
 - ・面会の制限（日時を決めて完全予約制）

④ 面会制限による課題

- 面会の制限による不安に対して、面会以外の方策として、日常の様子を写真や施設便りなどで知らせるという方法を行っている法人もあった。
- ・面会制限により、利用者や家族が不安になったと思われる。その為に、外から窓越しに面会等を実施した
 - ・面会規制による、本人と家族の不安。日常生活の写真の郵送、TELでの会話、職員からこまめな近況報告等。

〈考察〉

社会福祉法人においては、利用者と家族が会う面会をととても重要な機会と位置づけており、利用者の安心や、また、家族にとっても利用者の暮らしぶりを知ってもらう重要な機会として位置づけている。

コロナ禍において、従来のような面会が難しい状況下で、それぞれの社会福祉法人において、どのようにすれば、安心して面会が行えるかについて、真剣に考えて、工夫を行っている。

面会を時間制限により実施したり、様々な対策を実施した上での直接の面会を行ったり、それも難しい状況下では、リモートによる面会を実施して、利用者や家族の安心につながる取り組みを行っている。また、こうした面会が行えない時に、施設便り等で利用者の様子を家族に知らせるなどの取り組みを行っている。

(2) 利用者への行動制限

コロナ禍において、福祉サービスの提供に関して行った制限の一つとして、コロナの感染を予防するために利用者へ、外出の制限を行っている。

① 行動制限・外出の制限

- 児童養護施設や知的障害者施設においては、週末に自宅で外泊することが可能な利用者は、外泊を行っている場合がある。コロナウイルスの感染状況により、それが難しくなることがある。
- ・週末帰宅の自粛、外出の機会を極力減らす
- ・公共交通機関を使つての通所，不要・不急の外出，外泊，面会の自粛。食事を居室等で取って頂くこと。活動室の移動など密を回避すること。行動の縮小
- ・入所児童の外出（中高生）を、コロナ感染の心配があるので、現在は中止し、必要に応じて職員の付き添いで外出をしている。
- ・入所児童の外出の制限。行事の中止。保護者との面会、外出、外泊の制限。
- ・外出先、外出目的で感染予防を優先した。帰省の中止、家族との面会の制限。

〈考察〉

社会福祉施設で、自ら外出して行動を行うのは、児童養護施設や知的障害施設の利用者である場合が多い。余暇を使って自宅での外泊や外出を楽しんでいる。また、特別養護老人ホームや身体障害者施設の利用者においては、症状や機能障害のため、移動する際にも支援が必要なケースが多い。そのため、外出には職員か家族の付き添いが必要となる場合が多い。

福祉施設においては、自発的な意思も尊重しているので、希望があり可能であれば、その行動がとれるように配慮するが、コロナ禍にあつてはその行動が制限されることもある。そうした場合、外出ができないことで、利用者のストレスがたまらないように、他の施設内の行事やイベントを増やすなどの配慮を行っている。

(3) 福祉サービスの制限（施設、ショートステイ・通所・在宅サービスの利用制限）

福祉サービスの制限で最も多かったのは、施設における人の出入りを制限する対応である。入所施設は外出や面会の制限を行い、通所施設は感染状況を見ながら、調整を行っている。

①福祉サービスの制限（入所・通所）

○新型コロナウイルスの感染が心配される状況下においては、外出や面会や定期的な診察の回数を制限するなどの対応を行っている。入所の福祉サービスの場合、外部からの新型コロナウイルスの感染を抑えるために、家族等の面会の場合、制限をかける取り組みや外泊の禁止を行っている。

また、通所施設の場合は、利用者自身がそれぞれの家庭環境で生活している状況が多く、その家族や周辺環境からの感染についても危惧されるため、感染の予防には感染対策をしっかりとって、状況を見ながら調整を行っている様子がわかる。

- ・外出、面会、緊急を伴わない定期的診察の回数減少。
- ・利用者やその家族に発熱やコロナウイルス感染症の症状がある場合、利用を中止
- ・短期的な利用者の受け入れを中止した（今も一部継続中）。通院、外出など不要不急の事柄について、中止、延期などの対応を一部行った。
- ・同町内で新型コロナ感染者の発生に伴い、14日間デイサービスを休業とした。
- ・通所利用者の対応について、入所者との接触を避けるため、別の場所で対応をし、できる限り家庭で過ごしてもらう様に協力依頼をした。入所利用者の対応としては、帰宅中止の依頼、外出等の規制
- ・短期利用者の制限（外部の方の出入りを極力少なくするため）
- ・デイサービスやショートステイは、県外家族の帰省があった場合は、1週間利用できません。
- ・新規利用の受け入れ、在宅、他のサービスを重複して受けている希望者は制限した。

②行事・イベントの制限・中止

○新型コロナウイルスの感染予防の観点から、行事の縮小、延期や中止を行っている。具体的には、卒園式や遠足の人数制限、小旅行の中止、夏祭りや秋祭りの制限、外出行事を施設内行事に変更する等の対応を行っている。また、社会貢献事業として実施していたサロンを中止したケースもあり、社会福祉法人がその時の感染状況に合わせて、感染リスクを避けることに配慮しながら、行事の実施について検討を行っている。

- ・外出制限、レクリエーション制限(密を避ける為)
- ・運動会等、行事を短縮、分散して行いました。
- ・恒例の小旅行など中止。散歩や買い物などの回数・時間制限を実施
- ・卒園式の人数制限、遠足の人数制限

- ・大人数による行事を制限した。
- ・年間の保護者参加行事の中止等、密を避けて実施など
- ・社会貢献事業として展開していたサロンを中止した。
- ・行事（夏祭り、運動会他）の人数制限、地域交流を中止

③福祉サービスの制限による利用者や職員のストレス

- 利用者の行動を制限することで、週末に帰省が出来なくなったり、面会で会うことができなったり、行事の規模が縮小されたり、外出する機会が減ったりと日常生活において、かなり制限をかけられた生活を強いられるため、どうしてもストレスがたまりやすい状況になっていた。そのため、可能な範囲での外出や施設内での過ごし方を工夫したり、イベントを増やしたりして、利用者のストレスの軽減に努めた。また、職員においても、こうしたコロナ禍での利用者の新しい生活様式への対応や自身のプライベートにおいても新型コロナウイルスの感染を予防するために、配慮を行っており、こうしたことから、ストレスがたまりやすい状態であることは推察できる。
- ・定期的に週末帰宅をしていた利用者さんにとっては、ストレスとなっていた。電話や、園内イベントの充実を図り、ストレス軽減に努めた。
- ・制限することによって、入所児童のストレスが溜まることが課題で、出来るだけ安全面に気をつけ、職員と出かけたりと、施設内の過ごし方を工夫した。
- ・園内だけの行動となり、余暇活動が制限されることでストレスが溜まり、不満が出た。Wifi 整備を行い、ゲーム通信等が出来るようにした。テレビ電話で保護者と交流した。
- ・入所者の方同志のトラブルが散見された。職員が対応している。
- ・外出の制限をしたことにより、利用者様のストレスが蓄積されていった。
- ・利用者の「すごもり」による意欲の低下。
- ・利用者からの強い制限解除要望あり。地域に感染確認がなかったことから、8日間で制限を解除
- ・保護者の方同志の交流の場がなくなった。園での子どもの様子を見てもらう機会が減った。行事の様子をDVDにした。
- ・面会は全面禁止にしたが、家族様や利用者様にも良い影響が無かった為、曜日と時間を決めてビデオ面会を実施した。

〈考察〉

社会福祉施設において、新型コロナウイルス感染予防のために、福祉サービスを制限せざるを得ないことがある。

今回の項目では、特に通所施設における利用の制限について、いろいろな対応状況が記載されている。利用者が施設内である入所施設に比べて、通所施設の利用者はそれぞれの家庭環境で生活を行っているため、施設や職員のみでは感染対策は完結しない。そのため、家族や関係者にも協力してもらい、その時に応じた状況ごとに対応を変えている。

また、施設での行事やイベントについては、やむを得ず中止するという判断もある一方で、様々な工夫を行いながら、利用者の社会参加の一環として、出来る範囲で、取り組みを行っている様子も見受けられる。

これらの状況から利用者や職員が受けるストレスは小さくはないが、職員はできるだけ、利用者の生活が単調にならないように、大きな行事が中止となれば、施設内で実施可能な小さなイベントを頻度を多めに実施するなどして、利用者の生活が充実するように取り組んでいる様子が見られる。

3. 家族に対する影響

(1) 家族への対応

コロナ禍において、保護者や家族に施設に来て頂くことについても、難しい時がある。

しかし、そのような時だからこそ、家族や保護者に、利用者の支援状況について、情報共有を行う取組が必要だと考えている。

① 家族への対応

- 家族とは、コロナ禍であっても利用者のことについて、十分に情報共有が出来るように、コミュニケーションをとることに配慮している。また、来所の際には、体温を測ってもらったり、新型コロナに関する問診票に記入してもらうなど、取り組みを行っている。
- ・発熱等の体調の変化があれば、事前に連絡してもらう
- ・あらかじめ文書で、取り組みを家族へ周知するなどのリスクコミュニケーションに努めている。対応する職員を限定するなどで臨機応変に対応している。
- ・保護者とは常に情報交換を行い、対応ができるよう心がけている。

② 施設での工夫について

- 新規利用を希望する人に対しては、施設見学については実際に施設を見学してもらうことが難しい状況の時には、施設内部の写真を紹介したり、点字プレートにより紹介するなどしている。
- ・施設見学について、面会制限につき施設内部の見学対応ができないため、写真撮影により情報提供を行った
- ・送迎の時等、保護者と情報交換をしたり、個人懇談の機会を設けたりしている。
- ・感染予防のために長期欠席する利用者への在宅支援（障がい）

③ 家族への影響や負担

- サービスの提供を制限することで、家族側の介護負担が増加するケースがあった。通所介護を利用しており、入浴を行っていたが、サービスの制限により入浴を行うことが難しくなった。
- ・育児についての悩みの共有や子どもの発達、園への理解等が行事や懇談が少ない中でできにくい。コロナ自粛により、情緒の不安定が見られた。
- ・家族側の介護負担の増加につながった。利用者総数の減少によって、利用者確保が困難となった部分がある。
- ・家族の介護負担増がみられた。

(考察)

社会福祉施設において、福祉サービスの提供が難しくなると、その支援を家族等が行わなくてはならないため、家族の負担が増える場合もあった。

利用者支援に際しては、時間が充分にとれないときもあるが、家族や保護者とは充分

にコミュニケーションをとることに配慮して取り組みを進めている。

4. 施設に対する影響

(1) 地域公益について

コロナの感染予防のため地域との交流を中止にしている法人もあれば、感染状況に配慮しながら実施している法人もある。

・公益的な取組の実施について、コロナの影響はあるか

- ・影響がある 48件
- ・影響がない 44件
- ・未回答 7件
- *合計 99件

① 地域等へ向けた活動

○公益的な取組の実施について、約半数の48法人から影響があると回答があった。

コロナ禍において、他の項目でもサロンの実施を中止したり、ボランティアの受入をとりやめたりと、地域に向けた活動が行いにくい状況にあることがわかる。

しかし、こうした状況にありながらも、地域に対しての取組を行っている法人もある。

- ・地域の方への手紙や手作りプレゼントを送る
- ・作業で製作したマスクを地域へ配布した。
- ・いつも交流のある高齢者施設への写真や手紙の送付、地域への情報提供(HPやチラシ)
- ・子ども食堂を実施している。こんな状況下だからこそ行っている。

〈考察〉

社会福祉施設において、これまでの項目で見てきたように、コロナ禍では、地域との交流が行いにくい実態がある。しかし、こうした中でも地域へマスクを配布するなどの取り組みを行っているほか、子ども食堂を開催し、地域の子どもの困った状況をいち早く把握するために、継続して実施している法人もある。

(2) コロナ対策 (コロナ感染予防対策にて、どのような対策を立てているか)

コロナ対策としては、これまでの対策を引き継いで行う他、冬の対策としてインフルエンザについても配慮した取り組みを行っている。また、コロナ禍においてのコミュニケーションの手段として、オンラインを活用している法人が多くなっている。物品の備蓄についても、現状では充足しているが、物流が止まることで不足する可能性があるとの意見もある。

・冬の感染症の時期に備えて、コロナ予防の対策を立てているか

- | | |
|------------|-----|
| ・立てている | 45件 |
| ・立てていない | 17件 |
| ・これから立てる予定 | 25件 |
| ・未回答 | 12件 |
| *合計 | 99件 |

① コロナ対策等について

○コロナ対策について、これまでの対策を継続して実施することを考えており、感染に注意したマスク等の準備や新型コロナウイルスが感染しやすくなる3密状態を回避するなどの取組を継続して行うなどを予定している法人が多かった。

また、これからの感染予防対策として、加湿器を置き乾燥に気をつけるという意見やBCPの策定を行うとの回答があった。

イ. これまでの対策を継続して行う

- ・引き続き、換気や消毒、三密を避ける等の注意喚起と徹底・健康観察、これからの季節は特に乾燥に注意が必要、加湿に取り組む
- ・飛沫防止シート、マスク、消毒の徹底、朝昼の検温、換気、密にならないように昼食時間を分けている、手洗い
- ・マスク、手指消毒、換気、湿度管理など
- ・感染症対策マニュアル、健康チェックシート (毎日記録)
- ・1日3回施設内消毒の徹底、面会の制限、シールドの設置
- ・マスク着用、手指消毒といった予防対策として基本の徹底
- ・マニュアル作成
- ・これまで得た情報を考慮し、換気・消毒・ソーシャルディスタンスを中心とした対策に取り組んでいる。
- ・情報収集を行い、感染情報の把握。加湿の徹底。職員の健康状態の把握。アルコール消毒の徹底。
- ・「発生の事前予防と発生時における対応チェックリスト」(徳島県版)に基づく

ロ. インフルエンザ対策

- ・職員にできるだけインフルエンザ予防接種を受けるように指導
- ・インフルエンザ、コロナウイルスの判断がつかず、高熱時に受け入れ拒否が想定される。インフルエンザの検査を行って頂ける嘱託医には必ず相談できる体制を作る。定期的な換気、消毒を継続する。

ハ、冬期の対策（プラスアルファの対策等）

- ・加湿器を全室に置き、湿度に気をつける。フロア間の移動を無くすため、職員の配置を固定し、フロア内で業務が完結するようにしている。
- ・湿度が低くなるので、加湿器等の加湿対策、冬期の換気等の対策など
- ・消毒の徹底など、生活スタイルの変更。感染者が出た場合のゾーニング検討や、発熱等体調不良者の対応方法の確認。多機能型簡易居室の設置。衛生用品の備蓄計画の見直し
- ・新型コロナウイルス感染症予防の為の、対応チェックリストを作成し、対策ができているか確認できるようにしている。また、感染症発生時のBCPを準備している。
- ・次亜塩素酸水専用噴霧器による空間除菌。
- ・BCP策定
- ・職員に対する行動の目安を示しているが、その都度改訂を行うこととしている。備品の備蓄を切らさないよう、常に管理を徹底している。
- ・行事に関しては、密を避ける為の対応を考えている。（クリスマス会を無観客にする等）

② オンラインについて（オンラインをどのような形で活用しているか）

○新年度になり、新型コロナウイルス禍において、直接会っての面会や相談が難しくなり、その対策としてのオンラインでの対応が、一般化してきた。オンラインを活用する場面は、利用者と家族の面会や利用者のことについて報告や相談など利用者の支援に際しての状況等の情報共有を行うために、活用している。また、職員間では諸会議等にもオンラインでの情報を活用し、コロナ禍においてもスムーズな支援が行えるように心がけている。

・面会や利用者支援にオンラインは導入しているか

- ・はい 38件
- ・いいえ 54件
- ・未回答 7件
- *合計 99件

イ オンライン

- ・オンライン面会、事前予約制でLINEのテレビ通話を使用
- ・対面での面会は、一時期お控えいただき、事前予約制のオンライン面会を実施。ご自宅でもスマートフォンを用いて面会できるようなシステムを利用。
- ・保護者との交流にインターネットを利用して、テレビ電話を使えるようにした。一部の高校生にオンラインで学習ができるようパソコンを貸与した。

- ・タブレット、スマホ、パソコン等を利用したオンライン面会の仕組みを提供した。
- ・面会について、自宅と施設をつないで、家族等との交流を支えた。

ロ Zoom を使った事例

- ・ZOOM や LINE のアプリを活用し、環境整備を行った。また、プライバシーに配慮し、個室でオンライン面会を出来るようにした。
- ・zoom を使った面会（予約制、時間制限）
- ・ZOOM、LINE の活用による面会の実施、面会等の利用に向け準備している
- ・最初は、施設内からスカイプにて面会。8月にタブレットを6台導入し、ZOOM の他 LINE でも面会できるようになり、家族の自宅からのオンライン面会も進んできた
- ・ご家族からの希望に沿って、Zoom 面会を可能としている。

ハ LINE を使った事例

- ・大型タブレットによるリモート面会（LINE）
- ・ラインのビデオ通話
- ・無料通信ツールの LINE を使用し、オンラインで面会を実施している。
- ・無料コミュニケーションツール LINE によるテレビ電話でのオンライン面会を導入した。
- ・当初はパーティションを用いて面会していたが、その後中止となりラインを使って面会もしている。

ニ スカイプを使った事例

- ・予約制で、スカイプを利用し面会を行った。

ホ タブレット・iPad を使った事例

- ・iPad の FaceTime を利用したテレビ電話
- ・タブレットを使用し、テレビ電話対応
- ・施設に iPad を準備し、FaceTime を利用して、利用時間を 15 分以内とした。
- ・iPad を利用
- ・スマートフォン、タブレット端末による面会
- ・タブレット2台を購入し、ラインビデオ通話を実施
- ・面談室と病棟の面会室間で、タブレットを利用したオンライン面会を行っている。
- ・バイタルチェックを行う際、非接触型体温計、パルスオキシメーターと iPad が同期するケアシステムを導入した。

へ その他

- ・HP 上でのブログ配信
- ・他施設との交流会やフットサル教室への参加
- ・スマートフォンによるオンライン面会

③ 公表について(コロナ感染者が法人から出た場合その事実を公表することについての取組等)

○コロナの感染者が利用者や職員から出た場合、その事実を公表すると回答した法人は66件、公表しないと回答した法人は8件、未回答は25件となっている。実際に感染者が出た場合は、多くの法人で行政に相談または、協議を行うとの回答が多かった。また、公表については、基本的には公表する方が望ましいと考えている法人が多いが、具体的な決まりが、「ある」と回答した法人が23件で、「ない」と回答した法人が51件、未回答が25件となっている。
アンケート結果からは公表について多くの法人でその必要性は感じてはいるが、実際にどのように対応すれば良いのかについての決まりはなく、行政からの指示や協議をもって決めると回答した法人が多かった。

・コロナ感染者が法人から出た場合、その事実を公表する予定か

- ・公表する 66件
- ・公表しない 8件
- ・未回答 25件
- *合計 99件

・公表する場合に決まりがあるか

- ・ある 23件
- ・ない 51件
- ・未回答 25件
- *合計 99件

イ 行政(県・市町村)に相談する、協議する

- ・県(保健所の指導に従う)
- ・市・県に準ずる
- ・県、関係機関、保護者等には当然お知らせするが、公表はクラスターとなった場合に行う
- ・県、市、保健所と連携を密にする必要がある
- ・市町村の担当者に報告して、その指示に従う
- ・徳島県より公表すると言われた。
- ・徳島県や徳島市の指示に従います。
- ・県、所轄庁、保健所からの指示等があれば公表する。
- ・ケースバイケースと考えるが、基本的に監督官庁の指示に従う
- ・県知事が記者会見をしているので、施設が公表する必要は無い

ロ 公表について

公表した・する

- ・ホームページ上で公表した。早急に公表し、随時更新するようにした。
- ・公表しないために発覚したときのマスコミ等への対応を考えたとき、間違いなく「悪者、犯人」扱いされる。風評被害の方が怖い。この2点を考えただけでも、公表に踏み切った方が得策だと考えます。
- ・風評被害を無くすために、正確な情報をHP等で公開したいが、風評被害を食い止められるかどうか心配
- ・公表はしたくないが、地域の為やむを得ない。
- ・公表するかしないかは、その時の状況によって変わってくると考えられる

公表は慎重に行いたい

- ・公表に関する取り決め等は、今の時点では作成していない。感染者が感染発覚以前に勤務した日や濃厚接触者の有無など、利用者様やご家族様が心配される内容については、公表したいと考えている。業務と関係ない期間の行動や、個人情報に関する事は、感染者本人の意向を確認しながら公表できる範囲で公表する
- ・地域の特性上、公表が個人の特定につながらないか判断したうえで、県、保健所との相談により検討する。個人情報保護、権利侵害の防止は必須。感染者、法人施設に対して、誹謗中傷が発生しないようにする。デマに流されず正確な情報を入手する。
- ・風評被害等については、大きなリスクを感じており、情報の公表等は慎重に行う必要がある
- ・現在どのように対応していくかを検討している
- ・公表についてはクラスターが発生した場合のみ
- ・対応マニュアルの作成をお願いしたい。
- ・グループ企業であるため、グループの方針に従う。
- ・課題ではないかと思われるが、公表する場合どこまでの情報公開を行うか、指針を示してくれると（公に）非常にありがたいと思われる。
- ・公表はしたくないが、状況に応じて対応する。
- ・その時の状況や事例により、公表するかどうかを考える。

公表は難しい

- ・感染者の人権がどこまで守られるものかわからないため、難しいと思う。

その他

- ・各事業所でマニュアルを作成している
- ・二週間の登園自粛期間、どうしても園児が休めない場合の対応について。保育を受ける場合のガイドラインや費用、リスクについて

④ コロナの影響により、法人から離職につながるケースが出てきたか

- ・出てきた 3件
- ・出てこない 94件
- ・未回答 2件
- *合計 99件

○コロナの影響による離職は3件のみに止まっている。

⑤ 備蓄

○コロナに備えて備蓄を行っている法人では、マスクが一番多く86件、次にシールドが62件で、次にガウンが54件となっている。現状においては、それぞれの法人で充足しているが、流通状況の変化により、いつ必要な物品の不足になるか、危機感がある。特に手袋等が値段が高くなり手に入りにくいという回答が多かった。マスクについては、通常のマスクは現状では充足しておりN95マスク（医療用の感染予防のマスク）については、不足しているとのこと。

・コロナに備えて、備蓄は行っていますか（食料・マスク・シールド・ガウン）

- ・食料 36件
- ・マスク 86件
- ・シールド 62件
- ・ガウン 54件
- ・その他（アルコール消毒液、体重計、プラスチック手袋、ゴーグル、ペーパー類、消耗品、エプロン、グローブ）

⑥ 現場で不足しているもの

イ 手袋等

- ・グローブ、液体石けん、マスクなど高騰である。
- ・ディスプレイサブル手袋
- ・手袋の値段が高騰し、手に入りにくい
- ・プラスチック手袋
- ・プラ手袋が入手困難となっている。
- ・ビニール手袋、殺菌できる機械（玩具殺菌庫、歯ブラシ等）
- ・使い捨て手袋、ガウン
- ・ビニール手袋。

ロ マスク等

- ・N-95 マスク
- ・一時期、マスクや消毒液の入手が困難になったが、現在は足りている。
- ・当初はマスクや消毒液等が不足していたが、現在は充実している。
- ・マスクや消毒など、現在は足りているが、今後不足する可能性はある。

- ・マスク、手袋、消毒液
- ・現在はありますが、マスク、消毒液が不足し、困りました。
- ・現在はマスク等の備品もスムーズに入荷しており、特に不足しているものはない

ハ ガウン等

- ・ガウン
- ・ガウンが準備できていない。
- ・プラスチック手袋、防寒具（ガウン）・机。コロナ感染の疑いがある場合・・・隔離する場所や、充分備蓄は行っているが、備蓄品が不足するかもしれない
- ・完全密閉タイプの予防衣（シールドガードウェア、上下別タイプの予防衣）感染者発生時にマスク、シールド、フェイスガード等が完全ディスプレイになった際には不足すると考えられる。

ニ アルコール消毒液等

- ・アルコール消毒液
- ・アルコール（手指用）不足気味。
- ・一時期、アルコール消毒、マスクの入手が困難だったが、今は入手可能となり、不足しているものはない。
- ・非常食などの食料、マスク、アルコールは1ヶ月～2ヶ月分はあるが、今後入荷されなくなればどうなるかが不安
- ・ハンドソープ、ポリ袋

ホ フェイスシールド等

- ・フェイスシールド、手袋、ガウン、消毒液等
- ・感染時のプロテクター

ヘ 食料

- ・食料（利用者、職員分合わせて2週間分には程遠い）
- ・少しずつは用意しているが、食料はたくさんは備蓄できない。
- ・食料が不足している。

ト その他

- ・送迎車両（送迎を個別（事業所）に出すようになり不足）
- ・消耗品はいくらあっても良いと思う
- ・現在は特になし
- ・おもちゃやぬいぐるみ等を殺菌するための機械
- ・アクリル板
- ・現状概ねは確保できている。
- ・シューズカバー
- ・現状は対応可能だが、今後物資を仕入れることができるかどうか、供給的にも資金

的にも不安だ。

⑦ 感染症についてのご意見
イ 情報

- ・新型コロナウイルス感染症に関する情報の精査に、多くの労力・時間が費やされている。情報の精査・重要度等を分かりやすく発信して頂ければありがたい。

ロ 人員確保

- ・冬期になり、新型コロナウイルスだけでなく、インフルエンザ、ノロウイルスなど、他の感染症対策をしなくてはならないので、施設内での人員の確保が大変になると考えられる

ハ コロナ対策の課題

- ・入所施設における面会禁止は、入居者・家族ともにダメージが大きい。職員と家族の関係も希薄になる。感染リスクとのせめぎ合い。
- ・高齢者施設で認知症の方も入居しており、感染症対策の理解困難な方への対応が大変である
- ・制限（外出等の自粛）を、いつ頃解除するかが課題である。
- ・コロナ対策への理解
- ・いつかかるか（発生するか）分からない状況下での日々の保育に疲労感が増してきている。休暇を与えたいが保育士不足の現状では無理である。
- ・家族との面会の回数が減り、直接会話もできず、困っています。職員にも行動制限をお願いしているが、ストレスやメンタル面が気になります。
- ・コロナ対策への理解困難な方への対応
- ・感染症について、職員の意識がコロナの為向上した

ニ 社会福祉従事者以外のコロナウイルスに関する理解

- ・医療、保険、福祉の現場に関わる人たちとそれ以外の人たちでのコロナウイルス（感染症）に対する、認識や対応等、リスクマネジメントの温度差がいちじるしい。
- ・10月中旬現在、咳・はな水・発熱の出ている園児が増えてきている。発熱の場合は通院したり休んだりして下さるが、解熱後直ぐに登園したり、はな水や咳での通院等の対応をして下さる事は、なかなか難しい。保護者の方の、危機意識の低さが懸念される。
- ・冬にかけて、インフルエンザ、コロナと不安材料でしかない。職員は高齢者施設で働いていると自覚を持って生活をしているが、他の職種と考える格差がありすぎて防ぎようがない。

ホ 今後の対応について

- ・取り急ぎ、保健所には、入所施設に指導等を行って欲しい。

- ・これからも、丁寧に防止対策に取り組んでいきたい。マスクをしての保護者・子どもが無表情にならないよう、保護者の表情（目）に気配りをしていきたい。
- ・感染者が安心して介護サービスが受けられるしくみ。近隣のホテルを借り上げて介護職員がそこで介護サービスが提供できるようなことができないか。自施設では感染がまん延化するリスクが高いので。
- ・できるだけ、子どもの周りで職員がマスクをするように心がけている。

へ その他

- ・入所利用者の発熱、呼吸器症状がある場合、医療機関への受診を断られるケースがあるが、脳血管障害等基礎疾患がある利用者が多いので適切な診療、治療を受けたい。
- ・コロナウイルス感染者に対する誹謗中傷に対して対策を講じてほしい。
- ・ワクチンの安全性について情報が欲しい
- ・不安をあおりすぎて何もできなくなっている

ト 経営協へのご意見

- ・必要な情報等を素早く提供して頂けるように、これからもお願いしたい。
- ・未だかつて経験が無い事なので、他の法人の動向等を教えて欲しい。
- ・コロナ感染者は法人から出た場合、一番の問題は人員不足。人材派遣をできるだけ早急に県などとの取り組みの調整を行ってほしい。よろしく願いいたします。
- ・入所施設で発生した場合、県と医療機関で入院が可能かの確認が必要。施設内で、行動障がい者は入院を拒否されるのではと不安がある。
- ・サービスを提供するために、必要な経費について、来年度以降も確保できるように取り組んでいきたい。
- ・精神障害者が感染した場合の受け入れ施設の確保をお願いしたい。
- ・社会福祉法人の事業展開のあり方に関する指針の事業譲渡編はショックでした。過疎の進む小さな事業所としては、生き残る努力をしたい。

⑧ コロナ情報（コロナに関して提供してほしい情報等）

- ・コロナに関する情報はどこから入ってきますか（複数回答可）
 - ・県 90件
 - ・市町村 71件
 - ・種別協 49件
 - ・経営協 47件
 - ・その他（日保協、関係者、メディア、ネット、近隣施設、グループ内、厚生労働省関係医療機関、WAMネット、全養協、テレビ、ラジオ）

○コロナに関して入ってくる情報は、県や市町村などの行政からが多く、その次に種別協議会からとなっている。

イ コロナに関する情報

- ・今のところは、行政等が情報提供して頂けているのですが、今後最新の情報があれば、迅速に情報を提供して頂きたい
- ・ワクチンや薬の進捗状況
- ・市や県が保育施設に対して（公立に）、情報提供している内容は、民間へも知らせて頂きたい。
- ・認可保育園は公立保育所のように市が決めたガイドラインというのがないので、公立保育所に通知しているものを認可園にも送ってほしい。
- ・各施設の実情に応じたマニュアル（BCP）の作成に役立つ参考資料、コロナ禍で離職された方への求人情報の提供、補助金、助成金情報、就労B型事案利用者の作業工賃向上につながる情報。
- ・感染状況の正しい情報
- ・感染経路の詳細
- ・発生源
- ・どの地域に発生したか等、詳しいこと
- ・コロナ感染者が発生した場合、どこの地域、行動範囲を詳しく知りたい。
- ・感染者受け入れ施設の公表
- ・もしコロナが発生した場合の受け入れ可能病院等
- ・たくさんの情報があり、資料を読むのが大変なので、簡潔にまとめたものがほしい。
- ・日々の県内感染者状況を、毎日定時に発信して欲しい。
- ・対応や体制など、工夫している内容はいくつ知っていても損はないので、様々な取り組みの情報は欲しい。
- ・県内の感染状況に関する情報提供について

ロ コロナへの対応について

- ・感染対策用品、他の法人のコロナ対策
- ・感染者状況、衛生用品の優先的購入情報。他施設では、どの様な対策を取っているのか知りたいので、このアンケートの取り纏め結果を送って欲しい
- ・医療機関や高齢・障がい者施設での具体的な感染対策の状況
- ・コロナ感染症にかかった場合（法人で出た時）の具体的な対応、対処について

ハ PCR検査について

- ・職員はいつからPCR検査が可能か（全員）
- ・身近にPCR検査が出来るような情報が欲しい。
- ・感染した場合の受入機関の有無や、PCR検査について

ニ 助成金・補助金の情報

- ・助成金、補助金等の情報

ホ 利用者への対応について

- ・子どもと保護者とは常に三密状態であり、その中での職員の安全を守るための術を教えてください。

ヘ その他

- ・ない。不安をあおりすぎているので、なんとかしてほしい
- ・現段階ではなし
- ・徳島新聞ニュースプラス
- ・分からない
- ・福祉関係者への情報提供ではなく、広く社会？高齢者等介護施設で発生したときの重みを理解してもらうことが重要だと思われる。

〈考察〉

新型コロナの感染予防対策については、これまでの基本的な対策を継続して行っていくほかに、インフルエンザ予防注射について、できるだけ職員に受けるように指導するなどの対応を行っている。また、室内の乾燥を防ぐために、加湿器などで対応を行っているところもある。

また、コロナ禍において、外部や家族や保護者また関係者との諸会議や研修において、オンラインを活用した事例が増えている。オンラインを活用することで、保護者や家族とは利用者の支援状況の共有を行っている。外部との連絡手段や情報手段としても様々な取り組みが行われている。

感染者が出た場合の公表については、公表の必要性を感じている法人は多いが、具体的にどのように対応すれば良いのかがわからずに、公表の方法について、決まった指針や対策を現時点では、はっきりと定めている法人は、多くない状況がわかる。

また、情報については、現在入ってくる情報は、県・市町村行政が最も多く、経営協等の種別協議会からは半数程度の法人から入ってきているとの回答がある。また、個別の意見の中で、BCPやマニュアルの策定のための情報がほしいとの意見や感染者が出た場合に感染対策をとるので、具体的な感染情報を知りたいとの意見もあった。

コロナに関する意見については、今後、委員会で検討を進めていくように予定をしている。また、その都度情報提供等を行う予定。

新型コロナウイルスに関するアンケート

- ・コロナ禍における福祉現場において、どのように生活支援を行っていくかが大きな課題となっております。今ある課題、これからある課題で、工夫をして取組を行っている状況をお聞かせいただければと思います。
- ・現在の状況だけでなく、これまでのコロナ対応の取組をふまえて、ご記入をお願いします。

1. 貴法人事業所の主となる事業は（ 高齢・障がい・児童・その他（ ） ）

2. 利用者・家族支援について

①利用の相談について、新型コロナによる影響がありますか？（ ある ・ ない ）

・利用者・家族とのサービス利用の相談について、工夫をされていることはありますか？

②福祉サービスの提供について新型コロナにより制限を行いましたか？

（ 制限を行った ・ 制限していない ）

*こちらに〇の方は③、④へ

*こちらに〇の方は⑤へ

③制限した方にお聞きします。どのような制限を行いましたか？

④制限した方にお聞きします。制限することで、どのような課題がありましたか、また、どのような工夫をされましたか。

⑤面会や利用者支援にオンラインは導入していますか？（ はい ・ いいえ ）

・「はい」の場合、どのような形で実施されましたか、ご記入下さい。

3. コロナのために職員が研修等を受ける機会が減りましたか？（減った ・ 増えた ・ 変わらない）
・減った場合、どのような影響がありましたか、ご記入下さい。

4. コロナ感染予防のために法人や関係事業所または、関係機関等とWEBによる会議等を行いましたか？
（ 行った ・ 行っていない ）

5. コロナ感染予防のために職員に行動制限を行いましたか？（ 行った ・ 行っていない ）
・行っている場合は、どのような内容か、ご記入下さい。

6. コロナに備えて、備蓄は行っていますか？（ 食料・マスク・シールド・ガウン ）
その他（ ）

・現場で不足しているものは、ありますか

7. 今後、冬の感染症の時期に備えて、コロナ予防の対策を立てていますか？
(立てている・立てていない・これから立てる予定)
・コロナ予防の対策を立てている場合、どのような対策を立てられていますか、ご記入下さい。

8. コロナに関する情報はどこから入ってきますか。複数回答可
(①県, ②市町村, ③種別協, ④経営協 ⑤その他 ())

9. コロナに関して提供してほしい情報はありますか？あればお書きください。

10. コロナにより収入が減りましたか？
(①はい ②いいえ ③変わらない)

11. 公益的な取組の実施について、コロナの影響はありますか (ある・ない)
コロナを踏まえて新たに始めた取組がありますか。()

12. コロナ感染者が法人から出た場合、その事実を公表する予定ですか？
(公表する ・ 公表しない)
・公表する場合は、決まりはありますか？ (ある ・ ない)

・このことについて、取組やご意見があればご記入ください。

13. コロナの影響により、法人から離職につながるケースが出てきましたか？
(出てきた ・ 出てこない)
・どのようなケースだったかご記入ください。

14. 感染症について何でも御意見下さい。

15. 経営協に御意見があればご記入下さい。

*ありがとうございました。

社会福祉法人名 _____

記入者名 _____

